

圃場カルテ (水稻)

管理コード		土壌採取日	20 / /
対象作物名		生産団体/生産者	
		圃場名・番号	

1. 栽培管理における前年作との変更点 (前年作との変更点について該当するものにレ点を記入)

変更要素	品種	作土深	排水条件	水管理	稲わら処理	堆肥	土壌改良資材	肥料	その他	
	<input type="checkbox"/>									
変更理由	収量向上	食味向上	白未熟粒の抑制	秋落ち症状の軽減	その他					
	<input type="checkbox"/>									

2. 栽培概要 (前年作との変更点について記入)

品種名		栽培期間	20 / / - 20 / /
排水条件	1 漏水過多, 2 適切, 3 排水不良		
水管理	1 常時湛水, 2 飽水管理, 3 間断灌漑	[2][3]の開始 - 終了	20 / / - 20 / /
稲わら処理	1 全量鋤込, 2 一部鋤込, 3 持ち出し	[1][2]の実施期間	年前から
堆肥	1 無施用, 2 毎年施用, 3 時々施用	[2][3]の実施期間	年前から
種類	1 牛ふん, 2 豚ふん, 3 鶏ふん	その他	年/1回
施用量	t/10a	施用日	20 / /
土壌改良資材	1 熔リン, 2 ケイカル, 3 苦土石灰, 4 石灰窒素	その他	
施用量	kg/10a	施用日	20 / /
肥料	1 全面全層施用, 2 側条施用, 3 苗箱施用	N-P-K (%)	日付/施用量(kg/10a)
基肥	肥料名		20 / / kg/10a
穂肥	肥料名		20 / / kg/10a
穂肥	肥料名		20 / / kg/10a
ケイ酸追肥	肥料名	ケイ酸(%)	20 / / kg/10a

3. 本年作の収量、品質等の結果 (「前年作との比較」は該当するものの番号を左端の欄に記入)

↓ 前年作との比較	1 改善, 2 同等程度, 3 悪化		
<input type="checkbox"/>	収量	地域(または生産組織)の平均との比較(平均を100とした場合) 1 80未満, 2 80~100, 3 100, 4 100~120, 5 120以上	実測値 kg/10a
<input type="checkbox"/>	等級	1 1等, 2 2等, 3 3等	
<input type="checkbox"/>	未熟粒などの発生	1 なし, 2 白未熟粒, 3 胴割粒, 4 着色粒	その他
<input type="checkbox"/>	倒伏	1 ほぼなし, 2 1/3, 3 1/2, 4 2/3, 5 全面	
<input type="checkbox"/>	生育異常 土壌病害虫	1 なし, 2 秋落ち症, 3 赤枯れ症, 4 ガス等発生による障害 (春先), 5 いもち病, 6 ごま葉枯病, 7 カメムシ類	その他

4. 特に重点を置いた改善対策とその結果の感想 (または収量・品質に特に影響した要因)

継続圃場

※ 輪作のため、対象作物が前年度と異なる場合、新規圃場のカルテ様式に記入してください。

圃場カルテ (水稲)

管理コード	1 2 3 4 5 6 7 8	土壌採取日	20 21 / 10 / 5
対象作物名	水稲	生産団体/生産者	0000
		圃場名・番号	00-1

1. 栽培管理における前年作との変更点 (前年作との変更点について該当するものにレ点を記入)

変更要素	品種	作土深	排水条件	水管理	稲わら処理	堆肥	土壌改良資材	肥料	その他
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
変更理由	収量向上	食味向上	白未熟粒の抑制	秋落ち症状の軽減	その他				
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

2. 栽培概要 (前年作との変更点について記入)

品種名		栽培期間	20 / / - 20 / /
排水条件	1 漏水過多, 2 適切, 3 排水不良		
水管理	1 常時湛水, 2 飽水管理, 3 間断灌漑	[2][3]の開始 - 終了	20 / / - 20 / /
稲わら処理	1 全量鋤込, 2 一部鋤込, 3 持ち出し	[1][2]の実施期間	年前から
堆肥	1 無施用, 2 毎年施用, 3 時々施用	[2][3]の実施期間	年前から / 年/1回
種類	1 牛ふん, 2 豚ふん, 3 鶏ふん	その他	
施用量	t/10a	施用日	20 / /
土壌改良資材	1 熔リン, 2 ケイカル, 3 苦土石灰, 4 石灰窒素	2	その他
施用量	100 kg/10a	施用日	20 21 / 4 / 19
肥料	1 全面全層施用, 2 側条施用, 3 苗箱施用	N-P-K (%)	日付/施用量(kg/10a)
基肥	肥料名		20 / / kg/10a
穂肥	肥料名		20 / / kg/10a
穂肥	肥料名		20 / / kg/10a
ケイ酸追肥	肥料名	ケイ酸(%)	20 / / kg/10a

3. 本年作の収量、品質等の結果 (「前年作との比較」は該当するものの番号を左端の欄に記入)

↓ 前年作との比較	1 改善, 2 同等程度, 3 悪化		
1	収量	地域(または生産組織)の平均との比較(平均を100とした場合) 1 80未満, 2 80~100, 3 100, 4 100~120, 5 120以上	4 実測値 520 kg/10a
2	等級	1 1等, 2 2等, 3 3等	1
1	未熟粒などの発生	1 なし, 2 白未熟粒, 3 胴割粒, 4 着色粒	1 その他
2	倒伏	1 ほぼなし, 2 1/3, 3 1/2, 4 2/3, 5 全面	1
2	生育異常 土壌病害虫	1 なし, 2 秋落ち症, 3 赤枯れ症, 4 ガス等発生による障害(春先), 5 いもち病, 6 ごま葉枯病, 7 カメムシ類	1 その他

4. 特に重点を置いた改善対策とその結果の感想 (または収量・品質に特に影響した要因)

ケイカル施用によって白未熟粒が発生しなくなり、収量が向上した。